

事業実施報告書

法人名 特定非営利活動法人エコ.エコ

事業名	多角的環境教育事業
枠の種類	ネーミング事業
分野	(株)富士薬品ドラッグセイムス(環境保全事業)
①事業の目的・この事業で取り組んだ課題	<ul style="list-style-type: none">・点として環境保全活動、観察会、里山体験を行う中で、線として自然のつながりの視点を重視した防災キャンプを行い、日々の暮らしに生かす方法を防災キャンプで参加者に提案する。イベントの中で動画や写真に写ることも自然保護であるということを理解してもらう。・環境保全しなければ守れない自然があることを理解してもらう。ヒトは自然と共生しなければ生きていけないことを環境講演会で事例を挙げて理解してもらう。参加者はバイオミクリ(生物の形や機能を真似て開発された技術)の発想をカードにした簡単なゲームを通じて、暮らしの中に自然を生かしたものが多くあることを学んでもらう。・自然保護や動植物の営みを通し、防災への理解と自然学習する機会を動画で提供できるようにする。
②課題を解決するため、取り組んだ個々の事業	<p>防災キャンプ 有事を想定した防災キャンプを行った。水がない時、火がない時、明かりがない時を想定し、太陽光での充電、炊飯袋を利用したメニューづくりなど、実際の体験から何を備蓄したら良いかを理解してもらった。</p> <p>環境講演会 海外の環境教育の取り組みの事例紹介があった。視野が広がり、行政の取り組みの違いがわかった。生物との共存など学んだことを今後に生かしたいとの参加者からのアンケート結果が得られた。子どもたちもバイオミクリのカードを使ったゲームを通して自然理解を深めることができた。</p> <p>動画作成 空調の効いた部屋にいと気づかないが、ヒトは自然がなければ生きていけない。災害が起こった時、はじめて自然の大きさに気づくのではなく、普段から自然と関わることで危険を知ることや野外での活動をすることで、経験値を上げることが真の防災であることを伝える動画を作成した。</p>

③ 個々の事業の内容・実施結果

防災キャンプ 2019年9月14日10時から14時 実施
 参加人数 15家族（大人18名 子ども26名）、スタッフ10名
 場所 さいたま市緑区、トラスト1号地東屋

- ・ 太陽光の話
- ・ 水が使えない時のトイレの工夫、口腔衛生などの体験
- ・ 火の起こし方の体験
- ・ 防災食を食べる体験
- ・ 地球の歴史、人類の歴史を通して自然を理解する話

環境講演会 2019年11月10日13時30分から15時30分実施
 講師 塩瀬治氏（環境教育専門家）
 参加人数 大人29名 子ども15名 スタッフ10名
 場所 さいたま市南区、生活クラブ生協さいたま本部2階

- ・ 世界の環境保護の実情
- ・ ドイツでの取り組み
- ・ 子どもたちも参加したバイオミミクリカードで自然理解

○事業のスケジュール結果

時期	
6月	防災キャンプ用野菜の収穫
7月	会場確保
8月	機材の購入
9月	9/14 防災キャンプ実施
10月	講演会資料の打ち合わせ 保育打ち合わせ
11月	11/10 環境講演会実施
12月	動画制作
1月	動画制作
2月	2/6に動画映写会実施、2/27に動画公開 事業の振り返り。

○広報実績について

- ・ 防災キャンプ及び環境講演会のチラシを作成し、さぎ山記念館、コムナーレ、桜環境センターでチラシを設置してもらった。
- ・ 防災キャンプ、環境講演会の報告はHPにアップした。
- ・ 2月初めにさぎ山記念館の講座室にて映写会を実施。メンバーの他に埼玉大学大学院理工学部の深堀先生と研修のためにエコエコの活動に参加してくれている中国人の研修生にも見てもらった。
- ・ 2月27日、動画をHP上で公開した。

<p>④個々の事業の実施により達成した成果の具体的な内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災キャンプの中で参加者は多くの気づきがあり、日々の暮らしにも変化があったとの報告を受けている。例えば水の備蓄や食材の備蓄をしているようである(アンケート回収率:大人 78% 子ども 85%) ・環境講演会では、諸外国と環境の取り組みの違いを認識できたとのアンケート結果があった。今後、実際の取り組みへとつなげることが課題である。(アンケート回収率:大人 69% 子ども 87%) ・動画の公開により、今後、保全活動に参加する人や寄付が増えることが成果だと考えている。
<p>⑤費用の工夫</p>	<p>畑で収穫した野菜を使っでの防災食だったので、費用が削減できた。防災キャンプで使った道具は、今後、当会のイベント「里山.com」で使用予定である。</p>
<p>⑥地域社会への還元について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地の畑で耕作を行うことにより、見沼の自然景観保全への寄与があったと思う。また、畑周りの外来種を選択的に除草したことにより、ミゾソバ等の在来種が増えた。 ・子どもたちが畑に来ることで地域の人に元気を届けられた。次年度は地域の方に協力していただき、作物の充実を図りたい。 <p>私たちの活動が地域の活性化に繋がるように活動していきたい。</p>
<p>⑦今回の事業が他の団体、行政等が実施する同種の事業と比べて優れていること</p>	<p>ひとつの行事を実施する際、「環境と防災と多世代」をテーマに多角的に取り組めたことが、他ではできないことだと思う。それを実施する方向性を今回の助成で構築することができた。環境保全を持続できるように、観察会家族会員の規定の中にも、環境保全という活動を入れていきたい。</p>
<p>⑧事業の実施体制</p>	<p>○事業の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①総括責任者：加倉井憲一、②連絡責任者：加倉井範子 ③現場責任者：佐井隆利、④経理担当者：加倉井範子 ⑤広報担当者：土屋聖子
<p>⑨来年度以降どう事業を継続し発展させていくか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災キャンプを里山.comの中で実施する計画を立てている。具体的にはモーニング里山を夏休みの8月に実施し、昆虫を観察した後に、朝食に防災食を食べるように企画を立てている。総合的に自然理解や子どもたちの経験値をアップさせたい。 ・今回の環境講演会を実施する中で、環境問題は広く世界の情勢も視野に入れるべきであることに気づいた。今後の講演会では、若い世代と協力し、幅広い世代へ理解の輪を広げたい。 ・動画制作の中で、資料としての写真や動画撮影の必要性を感じたのでシナリオをまとめてから映像を撮り貯めていくという形に変えたいと思う。身近な自然の美しさを伝える動画を作成していきたい。 ・次年度は調査したことを冊子にもまとめる計画である。色々な角度で環境保全の必要性について、広報していきたい。

<p>⑩補足事項 (付帯意見への 取組み結果)</p>	<p><付帯意見>「事業名でも謳っている「多角的環境教育」を具現化するため、防災キャンプをはじめ、動画の作成については、環境保全の視点を強調してください。また地域（見沼）の多様な団体との連携関係構築に向けて、可能な限り取り組んでください。」</p> <p>○ 防災キャンプ、動画の作成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然保護を理解する方法として、防災キャンプの中で自然の器の中で暮らしていることを体験してもらうように働きかけた。その一環として作成した動画については、自然保護活動への理解を求める映像を中心に作成した。 <p>○ 見沼の多様な団体との連携構築について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然は一箇所だけ守るのではなく、広範囲を視野に入れるべきだと考え、以下のような見沼地域の施設・団体と連携することにより調査、作業、観察会、イベント等を行っている。 ・同じ緑区内で活動している多世代交流グループ「ぐーちょきぱーていー」と連携し、主に若い世代に対し見沼での活動への参加を呼び掛けている。 ・さいたま市立浦和くらしの博物館民家園との協力で、偶数月、年6回の民家園しぜん塾を実施。 ・さいたま市立大崎子供動物園と協働で、海外に由来のある子供たちと一緒にクズ抜きを行い、それをヤギに食べてもらうイベントを実施。今年度は見沼自然公園にてどんぐり穴の秘密の観察会を実施。 ・公益財団法人さいたま緑のトラスト協会と協働で畑の活動を実施。エコ.エコの会員の多くはトラスト協会会員である。 ・見沼さぎ山交流ひろばに参加し、見沼秋フェスのイベントや会議において活動。 ・見沼未来遺産の会員や埼玉大学と協働で斜面林の調査を実施。 ・グランドワーク in 芝川の活動に参加し、芝川のゴミ拾いを月一回実施。 ・また、地域の農家さんのご理解をいただき、草刈りをするという条件で除草剤の使用を控えてもらっている。そのことにより、希少種のミズワラビ等の保護ができた。 ・芝川第一調整池の視察などにも参加し、提案を行っている。 ・小さな点であるが、芝川第一調整池→民家園→大崎子供動物園→トラスト保全第一号地→マルコ→五斗蒔の畑→神之田斜面林→見沼自然公園と点を打ちそれがいつかは線になり、面になって生物多様性の緑の回廊になるように今後とも活動を続けたい。
-------------------------------------	--